

ミニシリーズ

中東のハウス事情 <その1>

「中東のビニールハウスは黄色い」シリアで初めて園芸用ハウスを見た時の感想である。その後、ヨルダンやイラク、UAEなど中東の様々な地域でハウスを見る機会があったが、ハウスの色は圧倒的に黄色が多い。他にも日本のハウスに親しんでいると奇妙に思う事も少なくない。今回、新しいシリーズを始めるに当たり、長年の疑問であった中東のハウスについて日本のハウスと比較しながら考えてみようと思う。なお、今回は湾岸産油国にみられるようなヨーロッパから輸入された大型

の連棟ハウスの連棟ハウス(俗にいうオランダ式、フェンロー型)ではなく、個人農家が所有するような単棟のハウスについて考えてみた。



シリアで見た黄色いハウス(半円型)

コンセプトの違い

施設園芸とはビニールハウスなどの構造物の中で野菜や果物、花などを集約的に栽培する方法である。ハウスを利用する最大の目的は、室内を作物の生育に適した環境に整え、季節の変化など外部環境の影響を小さくして栽培可能な期間を延ばすことである。しかし、同じハウスを使った栽培といっても日本と中東とでは、その利用目的が全く逆であるようだ。

日本の多くの地域では、ハウスは加温または保温のために用いられる。日本のハウスは一般的に、寒い冬期に室内を暖めて栽培期間を延長させるということに焦点が当てられている。したがって、日本の農家は冷房設備を導入するよりも先に、暖房設備を導入することがほとんどであると思う。また、ハウス内の湿度や二酸化炭素濃度を管理して作物の生育を促進させるといった気温以外の管理も行われ、ハイテク化が

進んでいる。

一方、夏は40℃を超え酷暑である中東のハウスは、室内をいかに冷やすか、という冷房優先の考え方であり、暖房設備は無くとも冷房設備はあるというハウスが多い。特にUAEなどの湾岸産油国では、通常のハウスであっても冷房装置は標準装備となっている。このハウスの利用目的の違いが、ハウスの形状や設備にも影響しているのではないだろうか？

中東のハウスの屋根の形

日本のハウスは資材、形状が様々である。被覆資材ではガラスや何種類もの軟質フィルム(一般的なビニールハウス)があり、形状でも両屋根型、丸屋根型、スリークウォータ型など数多くある。そして、日本では大抵どの種類のハウスであってもハウスの側面や天井に側窓、天窗がついており、これらの窓を開閉することで換気や気温の調節を行っている。

中東のハウスは殆どが半円型か丸屋根型である。筆者の見た限り、UAEのハウスの多くは丸屋根型で、イラク、シリア、ヨルダンなど湾岸以外の地域では簡素な半円型であった。ただ、どちらのハウスにも共通して側窓や天窗は無い。実際に作業をしてみると、半円型ハウスはハウス脇の天井が極端に低く、端での作業が非常にしづらい。作業性を考えれば丸屋根型の方が優れていると思うが、シリアやイラクでは普及していない。この原因の一つは、恐らく丸屋根型は半円型よりも資材費がかかるためではないかと思う。(つづく)



UAEのハウス(丸屋根型)



両屋根型ハウス(日本)



丸屋根型ハウス(日本)



スリークウォータ型ハウス(日本)